

水道標準プラットフォーム利用環境について

水道標準プラットフォームには、①評価環境、②開発・試験環境、③本番環境がございます。
接続する回線については閉域網となりますが、評価環境のみインターネットからのアクセスを許容しております。

1. 各利用環境のご利用にあたり

- ・①評価環境と②開発・試験環境、③本番環境ではご利用できる機能が異なります。
- ・各環境の仕様についてはサービス仕様書をご確認下さい。
- ・利用申込手続きについては、「ご利用開始までの流れ」を、ご利用の詳細については「利用マニュアル」を別途ご提示致します。

2. 各利用環境について

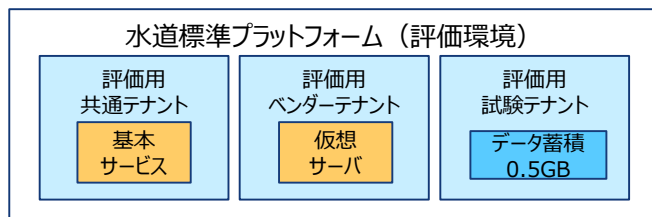
①評価環境

水道標準プラットフォームの仕様を確認するための簡易的な接続試験などを実施する環境です。
なお、インターネットを経由して利用します。

以下の範囲内で水道標準プラットフォームの機能をお試し頂けます。（※各機能についてはサービス仕様書をご確認下さい）

アプリケーションアクセス、ベンダー拠点とのインターネット接続(固定IPベース)、ユーザ管理サービス 5ID、
ベンダーテナント提供サービス 1テナント、試験テナント提供サービス(事業者基本型) 1テナント、
アプリケーション管理サービス 1アプリ、ゲートウェイ管理サービス 2ID、アプリケーション向け標準インターフェイスサービス(監視用) 50項目、
ゲートウェイ向け標準インターフェイスサービス(監視用) 50項目、アプリケーション向け標準インターフェイスサービス(台帳システム用) 50項目、
データ蓄積サービス(試験テナント) 500MB、IT基盤 (IaaSサーバ)

★評価環境については、開発・試験環境/本番環境との連携は対応しておりません。



水道標準プラットフォーム利用環境について

②開発・試験環境

アプリケーションの開発および、本番環境へリリースする前の試験を実施するための環境です。
閉域網ネットワークを経由して利用します。

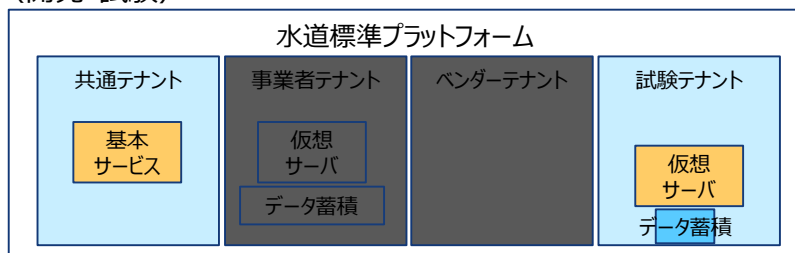
③本番環境

アプリケーションを利用し水道業務を実施する環境です。閉域網ネットワークを経由して利用します。

★テナント利用における開発・試験環境から本番環境への移行イメージは下記となります。

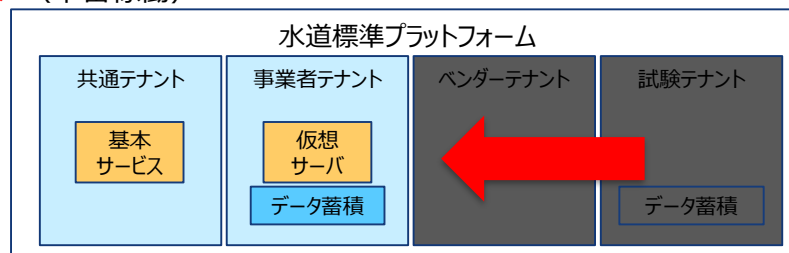
a:事業者テナントにアプリケーションを実装し、事業者様へご提供

(開発・試験)



環境切替

(本番稼働)

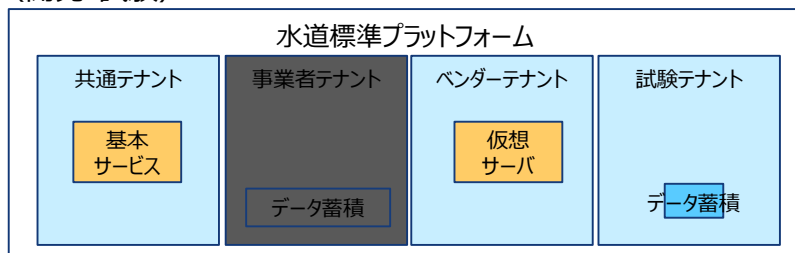


★開発・試験環境から本番環境へのテナント移行に伴い、仮想サーバの設計・構築、アプリケーションの移行が発生します。

★本番環境移行後の月々のご利用料金は安価ですが、環境切り替え時に費用が発生します。

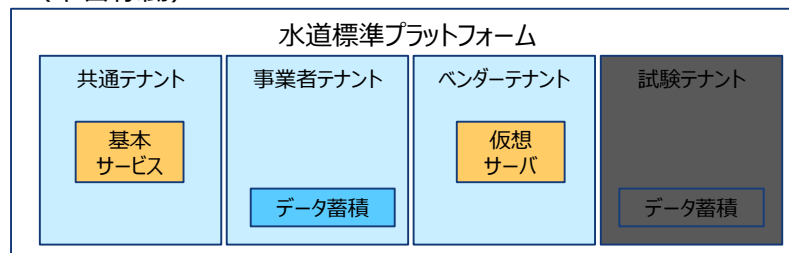
b:ベンダーテナントにアプリケーションを実装し、事業者様へご提供

(開発・試験)



環境切替

(本番稼働)



★ベンダーテナント上にアプリケーションを実装した場合、本番環境への仮想サーバの移行は発生しません。

★共用アプリケーション向けの環境で、複数事業者への提供をお考えの場合は各事業者への費用の配賦が可能です。
ベンダーテナント料金が発生しますが、開発・試験環境から本番環境への切替時のサーバ移行費用は発生しません。